



発行日 = 2004年10月25日 発行人 = 面出薫 編集 = 田沼彩子・上田夏子
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズアソシエーツ内 (田沼彩子)
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

照明探偵団通信

vol.20 Shomei Tanteidan Tsu-shin

照明探偵団倶楽部活動 1

Transnational Tanteidan Forum 2004 in Hamburg
～ドイツ・ハンブルグ～

海外調査レポート

韓国3都市調査
～釜山・済州島・ソウル～

照明探偵団倶楽部活動 2

「キャンドルナイト@キャットストリート」開催！

照明探偵団倶楽部活動 3

街歩き報告 (7/29 隅田川ライン)

照明探偵団倶楽部活動 4

研究会サロン (8/6) 報告

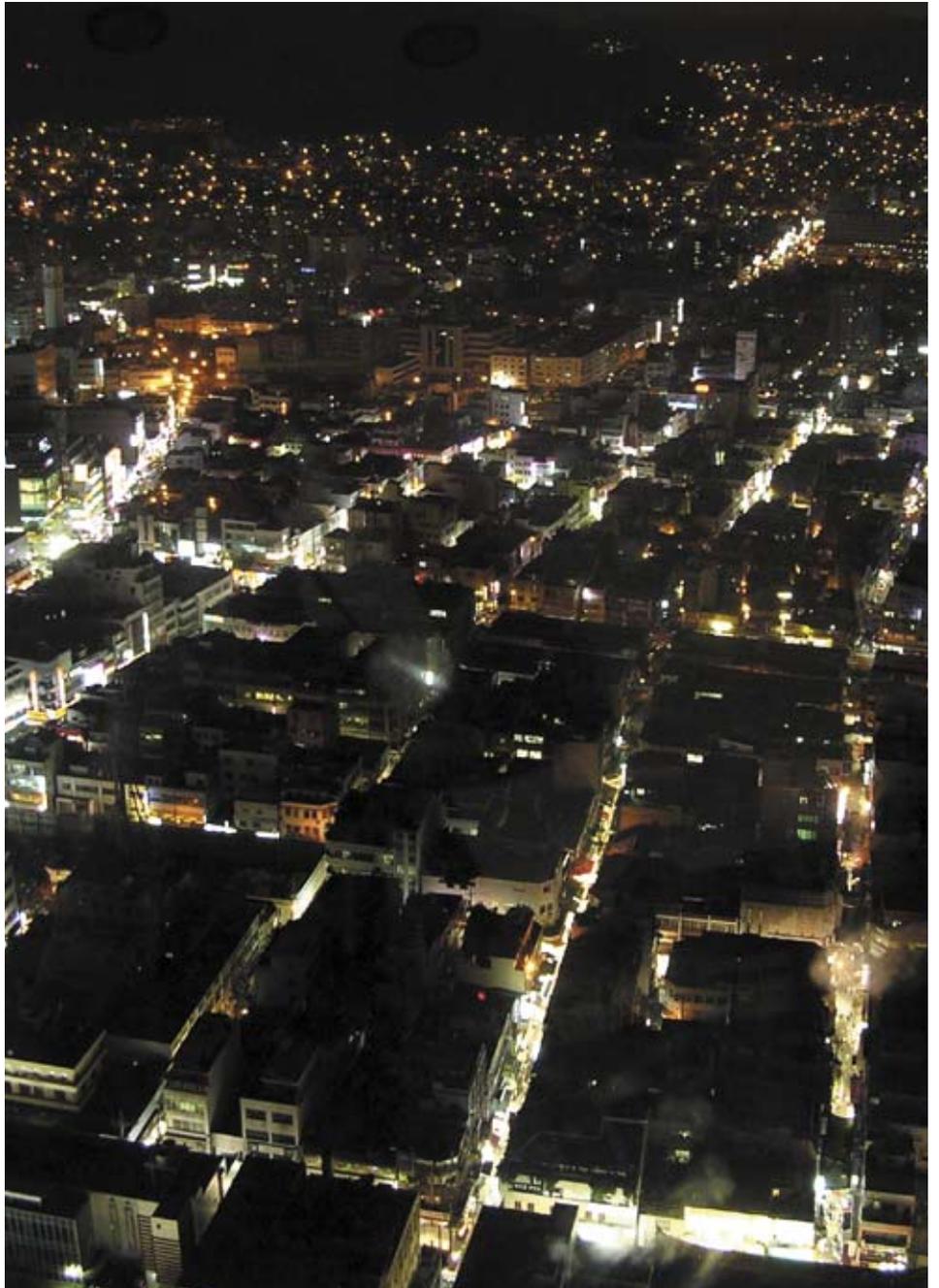
照明探偵団倶楽部活動 5

「世界照明探偵団 光の事件を探せ！」発刊！

照明探偵団倶楽部活動 6

ArchiTV LIVE24 報告

照明探偵団日記



釜山の夜景

Transnational Tanteidan Forum 2004 in Hamburg

ドイツ・ハンブルグ

2004.09.02

窪田麻里 + 田沼彩子

■ Transnational Tanteidan Forum 2004 in Hamburg

昨年のストックホルムフォーラムから早一年。2002年の東京から始まったTransnational Tanteidan Forumも今回で3回目となりました。“国境を超えた”という意味のTransnational。Internationalというほど堅苦しいニュアンスは無いけれども、もはや私たち照明探偵団の活動範囲に国境や垣根は無い、といったところでしょうか。

今回は既に初秋の雰囲気漂う美しい港町、ハンブルグにて。会場はFreie Akademie der Künsteというハンブルグの中央駅にほど近く、とても便利なところ。ドーム型のホール内も柔らかい光で照明されてとても居心地の良い会場でした。ハンブルグはドイツでも北に位置するため、北欧からも電車や車でのアクセスが可能。そのためか、今回はドイツ国内からだけでなくコペンハーゲンなど北欧からの参加者も多く見受けられました。昨年に引き続き盛況で参加者は150名程度。今年はピアニストの演奏がプレゼンテーションの合間に入るなど、いつもとは少し趣の違うフォーラムになりました。

■ 交通施設の照明がテーマ

今回のテーマは“Daily Transportation Facilities”。つまり、毎日の通勤、通学など人々が足として使っている交通機関は何なのか、その照明環境はどうなっているのだろうか？ということについて、6ヶ国から集まったコアメンバーからのレポートが行われました。

面出団長による東京のプレゼンテーションでは、どれだけ過酷な通勤・通学ラッシュを私たちが毎日体験しているのか、ということラッシュ時の風景も交えて報告。やはりすし詰めになった電車で人が押し込まれている様には会場からもどよめきが。東京、新宿などいわゆる主要駅は周辺も含めて随所にお店や看板などが建ち並び、いかに日本の駅が商業と結びついているかということが改めてよくわかります。そして白く均一な空間、110Wの長い蛍光灯が天井を埋め尽くす様は、やはり日本独特の

ものでしょう。ただ、最近開通したみなとみらい線など新しくなった地下鉄の各駅には一部建築家やデザイナーが入り、間接照明や光壁が取り入れられるなど、照明にも変革が起きている。

他のメンバーのプレゼンテーションでは、ニューヨーク・グランドセントラルステーションのメインコンコースの贅沢な空間や白夜を背景にしたストックホルム中央駅などが紹介されています。日本ではただ通過する場所に過ぎない駅が、他の国では愛される公共空間として位置づけられていることを実感。やはり毎日通る場所だからこそ駅は心地よく、時にドラマを感じられる空間であって欲しいものです。

会場では発売されたばかりの『世界照明探偵団 Transnational Lighting Detectives』も販売されました。世界各都市の夜景や住宅照明のプレゼンテーション、これまでの照明探偵団の軌跡などが美しい写真と一緒に和英併記されているので、参加者にも好評でじっくりページに入っている人もいました。

■ 真っ暗闇の体験

フォーラムの翌日はハンブルグで行われている“Dialog in the Dark”というイベントに参加してきました。これは全く光の入らない空間に入り、聴覚や触覚など視覚以外の感覚を使ってさまざまな体験をするという、展覧会。1989年にドイツのアンドレアス・ハイネッケ博士のアイ



フォーラム会場入口



Ulrike 宅でのコアメンバーミーティング

今回で3回目となるトランスナショナル探偵団フォーラム。今回はドイツ・ハンブルグで開催されました。テーマは“Daily Transportation Facilities”。6ヶ国から集まったメンバーが各国の交通施設の照明についてプレゼンテーションを行いました。



朝食後に庭で和むコアメンバーたち



フォーラム会場にはたくさんの方が集まりました



会場では『世界照明探偵団』が販売された

デアで生まれ、その後ヨーロッパを中心に14カ国、100都市で開催され200万人以上が既に体験しているようで、日本でも外苑前の梅窓院・祖師堂ホールで行われていたものです。5名ほどの人たちと一緒に盲人の方に案内されて真っ暗闇の空間のスタート。入口を入るとまずは文字通りの“真っ暗闇”を体験。日常で真の闇を体験することなどまず無いので、目を懸命に見開いても何一つ視界に入っていない、という身体感覚がなんとも不自然に感じられました。そしてその暗闇のまま空間設定が町中を次々と移っていきます。信号を渡る、ボートに乗る、マーケットで買い物をする、などなど。そして、最後にはなんとお金を渡してバーカウンターで飲み物を飲む！という体験まで。

いつも使っていない感覚が自分でも驚くほど鋭敏に感じられて、いかに日常生活で五感を使わずに過ごしているかということを感じさせられました。

■ “世界照明探偵団” の活動

東京から、ハンブルグ、ストックホルム、コペンハーゲン、シンガポール、そしてニューヨークと様々な都市からコアメンバーが参加するTransnational Tanteidan Forum。東京から始まった照明探偵団の活動ではありますが、ただ同じような活動を踏襲するだけでなく、最近では各支部がメンバーを募って街歩きをしたり、独自にウェブを立ち上げたり、レターヘッドをデザインしてみたり、と徐々に活動の幅が広がっています。

照明探偵に国境は無いけれども、自分が見慣れた日常の景色を違う都市のメンバーが見ると、思いもよらない切り口からのコメントが聞けたりする。そのギャップが世界照明探偵団の面白さのひとつでしょう。

来年は9月にニューヨークでのフォーラムが予定されています。乞うご期待下さい。

(田沼 彩子)



フォーラム後のレセプション会場



美しいハンブルグの街並み



Dialog in the Dark 会場入口

韓国 3 都市調査

釜山、済州島、ソウル

2004. 07. 13 - 07. 18

田中智香 + 早川亜紀



釜山の夜景

■釜山

釜山は韓国最大の港町で周囲には山や温泉もあり、日本からも近いので気軽に訪れることが出来ます。市内は開発中のエリアが随所にあります。高層の住居ビルなどが計画されているようです。その辺りは道路もきれいでポール灯もデザインされたものが多くありました。釜山の市の鳥であるカモメがモチーフとして付いていたり、市のキャラクター・ヘウミちゃんが描かれていたりします。曲線のデザインが多くありました。

□釜山タワー

釜山タワーの展望台は展望台らしからぬ派手なカラーチェンジ&点滅&キラキラ装飾で施され、夜景を撮影するには映り込みがひどくてサイアクの環境でしたが、釜山の夜景は個性的で興味深いものでした。手前は繁華街で店舗やレストランなどが密集しているのですが、主に蛍光灯などの真っ白い光を使用しているため、上から眺めると建物の谷間から白い光が強烈にこぼれているようです。道路上の照度は店舗にもよりますが200～300ルクス程度。一方繁華街から離れ山肌の方にゆくにつれて、オレンジ色のナトリウムランプの光がぼつぼつと散りばめられています。その辺りはおそらく住宅エリアで道路照明が見えているのでしょう。白色とオレンジ色、ラインと点の光のコントラストが印象的でした。

□チャガルチ市場

チャガルチ市場は韓国最大の水産物市場です。人の活気と魚の匂いにひるんで写真だけ



チャガルチ市場

撮って早々に退散してしまいましたが、その場でさばいていただけるヒラメの刺身やムール貝など堪能してくればよかったと後悔しています。

日本の築地市場では白熱球が主に使われているのに対して、チャガルチ市場ではほとんどが蛍光灯を使用していました。コンパクト蛍光灯が裸で吊り下げられ、パーベキューなどで使用するような銀皿がシェードとしてついていました。市場は築地のイメージがあるからか、蛍光灯の光に照らされた魚介類はなんだかのつべりとしていてあまり新鮮さが感じられないような気がしました。

■済州島

済州島は梅雨も明けてすっかり夏の雰囲気が出ていました。済州島は岩山や鍾乳洞など自然観光スポットが多く、ゴルフ場・ビーチなどのレジャースポットにも恵まれたところです。穏やかな景観が広がり、休暇をゆったり過ごすのにはオススメの島です。

□海岸沿いの夜景

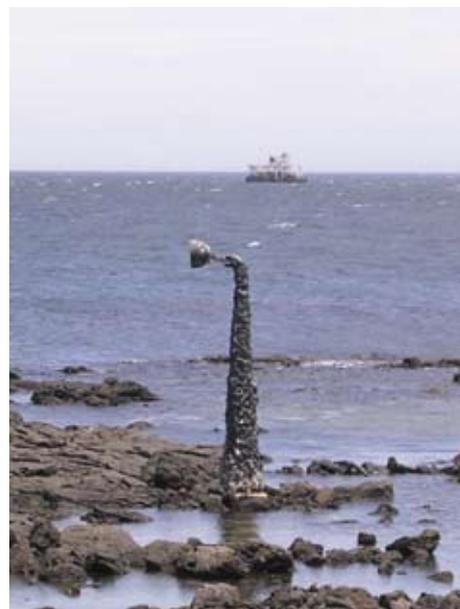
海岸道路にはカフェや刺身店が立ち並び、夜には華やかな雰囲気になります。カフェは派手なネオンやカラーライティングで各店主張しています。刺身店の店先の水槽には半透明なイカが泳いでおり、蛍光灯で照らされて道行く人の目をひきます。このエリアは遠くから眺めると光が海に映り込み華やかです。店前の海岸には、ごつごつした岩の景観と合わせたのか岩風のポール？にスポットライト(カラー)が取り付け、海の方へ向かって光を投げかけています。こんなに堂々とスポットライトを放っている様子

を初めて見ました。漆黒の海の中、白い波がその光を拾って色に染まった様子が見られました。

□漁船の光

夕暮れ時、徐々に周囲が青色に満ちてゆくのと同時に、水平線に真白な強い光がぼつぼつと現われます。それは次第に数も増え、辺りが暗くなってくると光がより強く浮かび上がってきて水平線一帯に広がります。日本海でも見られるイカ釣り漁船の光景と同じではないかと思えます。

印象的だったのは、夜間海辺で過ごす人々の姿です。夕涼みでしょうか、レジャーシート



岩風スポットライト

韓国は日本に地理的にも近く、人の顔の造りも似ていて親しみを感じますが、やはり文化とともに照明環境も異なるようです。また今回は3都市訪れましたが、場所ごとに特徴もあり興味深い景色を見ることが出来ました。



水平線の漁船の光



ランプをぶら下げた漁船

を敷いて座りごはんを食べたり、中には鉄板焼きのようなものをしている家族もいて、辛くて食欲を誘う韓国料理独特のいい匂いが漂ってくるのです。夜釣りをしている人も多く、赤いLEDライトがついた浮きが、釣り糸を放り投げるときに描くカーブの軌跡がきれいでした。

■ソウル

ソウルは漢江をはさんで南北に市街地が開けており、特徴のあるエリアが点在しています。私たちが訪れたときにはまだ梅雨が明けておらず雨が降りつづいていました。

□道路照明

他の2都市もそうですが道路照明は主にナトリウムランプを使用しています。日本とは異なりグローブ型の器具が数多くありました。また韓国では、メインストリートではない普通の道路のポール灯にも、フラッグが取り付けようになっているものが結構あります。たまたま訪れていた期間に憲法記念日(7/17)があり、道路の両脇に国旗が飾られていました。国旗に対する考え方の違いが照明器具に表れているのでしょうか。

□景観照明

ソウルを都市スケールで考えたとき、市場や繁華街、ブランドショップの立ち並ぶ目抜き通りなど、各エリアに特徴のある光があります。また漢江にかかる橋のライトアップなど、インパクトのある夜景の要素もありました。しかし、ポケットパークのような都市のスキマの空間の照明がイマイチでした。橋のライトアップもグレア対策をきちんと施すなど、都市景観としての照明の質を上げてゆくことでもっと魅力的な夜景を創造することができるのではと思います。

(早川 亜紀)



ソウルの夜景



橋のライトアップ

『キャンドルナイト@キャットストリート』開催！

キャットストリート

2004.06.20

■キャンドルナイトって何？

照明探偵団としては2回目の参加となった今回のキャンドルナイト。「キャンドルナイトって一体何？」という方のために簡単にご説明します。キャンドルナイトとは、環境や省エネ、現代社会のライフスタイルについて考え直すとともに、時間のあり方、過ごし方などについても見つめ直すきっかけとして、環境NGOが中心となって始めた取り組みです。

夏至と冬至、という一年で最も日が長い/短いという日に、地球の時間の流れに合わせて人間も過ごしてみよう、夜8時から10時までの2時間だけ、「でんきを消してスローな夜を。」をスローガンにいつもとはちょっと違った時間の過ごし方をしてみよう、というのがこのイベントの主旨です。

東京タワーなども含め、全国で6000箇所もの施設がライトダウンされたり、200箇所以上でキャンドルを使った様々なイベントが行われたり、とこの輪は広がってきているようです。そういったイベント以外にもwebから参加意志を表明して、キャンドルを用意すれば自宅で誰でも気軽にキャンドルナイトに参加することができます。

■キャンドルナイト@キャットストリート

この中で照明探偵団が主催しているのが「キャンドルナイト@キャットストリート」。表参道と直交する旧渋谷川、約700mほどの暗渠の遊歩道（通称：キャットストリート）です。1964年の東京オリンピックを機に渋谷駅富坂以北の渋谷川は一斉に暗渠化されてしまったらしいのですが、それまでここキャットストリートに



hhstyle は広いスペースを活かしたパフォーマンス

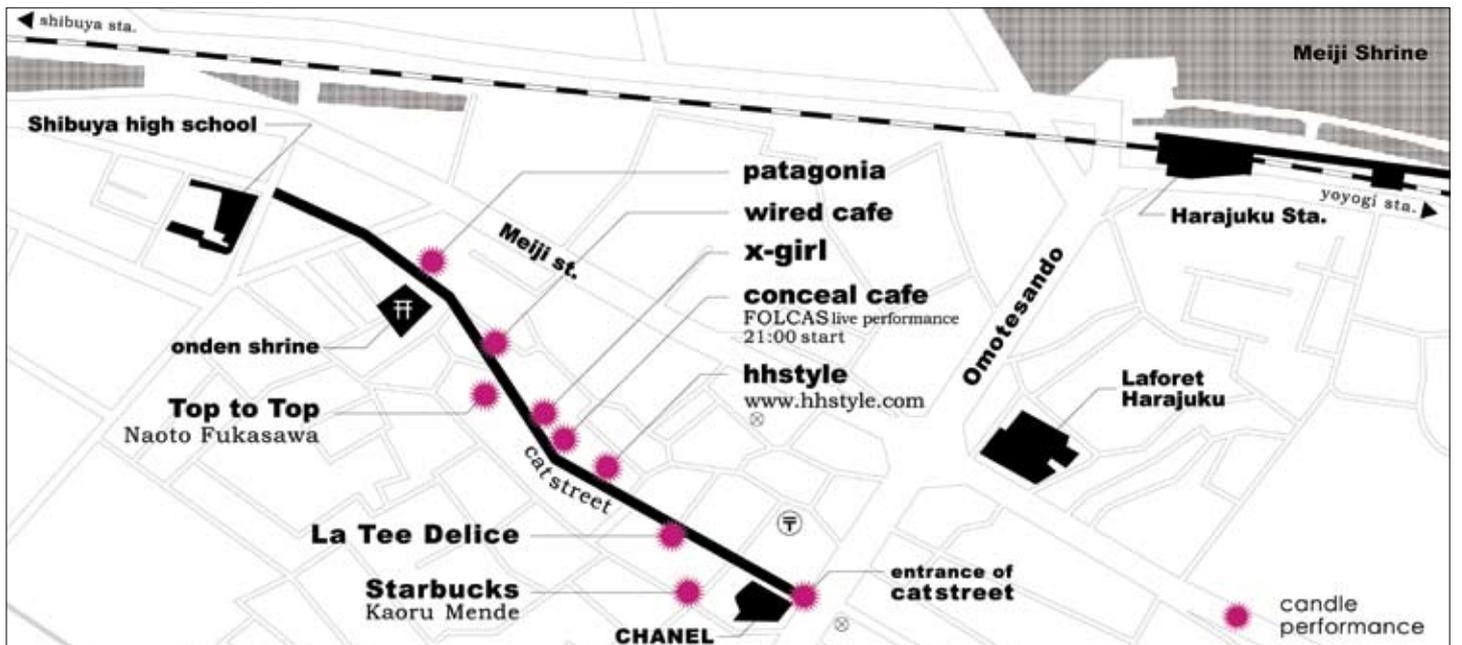
も小川が流れていたのだとか。有名な小学唱歌「春の小川」の舞台となったのも渋谷川の支流とこのこと。そんな今ではもう見ることのできない川の流れをろうそくの炎によって感じる、というのもこのイベントならではの。

今回はこの約700mほどの遊歩道上で全9箇所のキャンドル・パフォーマンスを行いました。何もかもが初めてで手探り状態だった昨年12月の冬至のキャンドルナイトより今回は規模も拡大し、キャットストリートに集まるお客さんの

数も増えました。キャンドル・パフォーマンスに参加したのは照明探偵団の他、武蔵野美術大学面出ゼミ、多摩美術大学有志、慶応義塾大学有志、東芝デザインチームの面々。さらに今回はキャットストリートに事務所を構えるデザイナーの深澤直人氏もスペシャルゲストとして参加して下さいました。

■キャンドル・パフォーマンスの数々

キャットストリートを舞台にどんなキャンドル・



9箇所で開催されたキャンドル・パフォーマンス